

テニュアトラック制の効果

大学・研究機関にとってのメリット(例)

優秀な若手研究者を採用できる
外部資金の獲得が増えることにより、間接経費などの収入が増えた

一般の若手教員に比べ科学研究費補助金の採択率が高くなっている。

若手研究(A・B)(39歳以下)の採択率

	テニュアトラック教員	学内の一般教員
採択率	73.0%	36.3%

2倍の採択率

平成20年度採択9機関における、平成20年度～21年度の科学研究費補助金の獲得状況から算出
一般教員は各大学のテニュアトラック教員以外の教員

テニュアトラック教員にとってのメリット(例)

優れた実績を残せば安定的な職が得られる
十分な研究費が配分されて自立した研究環境の中で自分の研究に取り組める
研究以外の業務が軽減されて十分な研究時間が確保できる

テニュアトラック制の効果

国全体のメリット

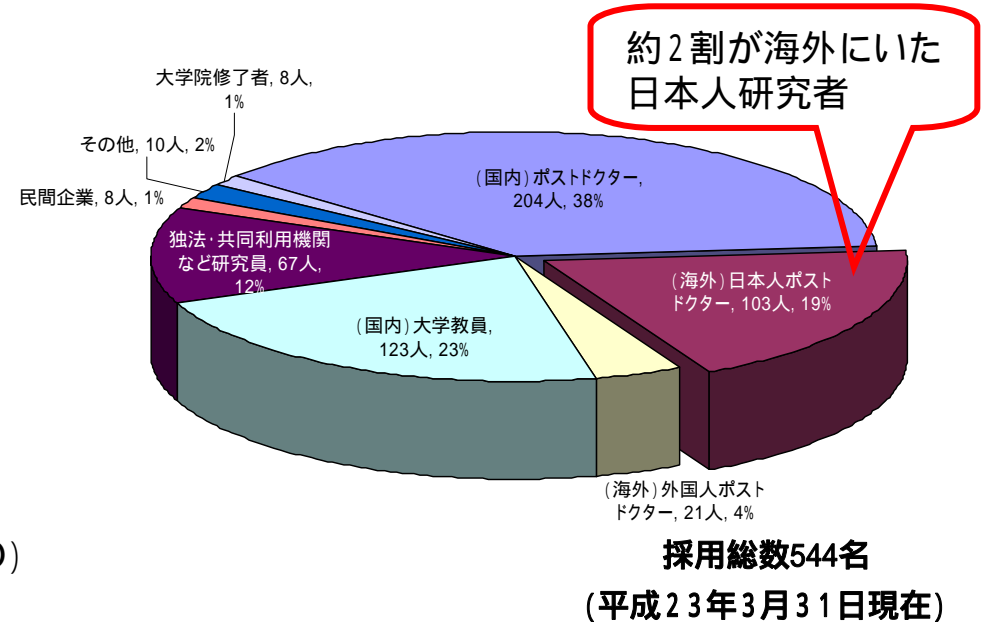
若手研究者が優れた研究成果を出すことで、科学技術の振興に貢献
海外にいる日本人若手研究者が国内で活躍するポストの一つ

テニュアトラック教員の主な受賞実績の例

- ・科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞
- ・科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究分野)
- ・科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(技術分野)
- ・ゴードン・ベル賞 (Price/Performance)
- ・米国生理学会
(Neural Control & Autonomic Regulation Section (NCAR)
New Investigator Award)
- ・Foresight Institute Feynman Prize
- ・ヒューマン・フロンティア・サイエンスプログラム推進機構(HFSPO)
キャリア・ディベロップメントメント・アワード(CDA)
- ・英国王立化学会 (Royal Society of Chemistry) PCCP賞

他多数受賞

図 採用されたテニュアトラック教員の前職(平成18~22年度)



- 注) 1: 「(国内)大学教員」は、正規ポストによる常勤教員
2: 「(国内)ポストドクター」には、「(国内)大学教員」ではない
有期雇用研究員(ポストドクター)や特任教員を含む。
3: 「その他」は医員、教務職員等

旧科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」により
採用されたテニュアトラック教員の現状